

築140年のモデル住宅

スタジオ 「風のくら」

ハウスランド社

堂々たる風貌の松の梁は、三上代表曰く「通り酒屋に使われるようなクラスの見事な梁」。ならばそれは積極的に残して、吹き抜けを表情豊かに、新しく天井に貼った杉板とのコントラストも美しい

土間から眺めたリビング。開かれた椅子の扉にはフランス産のガラスをコラージュし、和と洋のテイストを違和感なく共存させている。リビングの右手に客間とベッドルーム、左手にトイレ、洗面、バスルームがある。



探していたのは、
もっと柔軟な考え。



日本の風土に合った
古民家という逸材を
リノベーションする

九州自動車道筑紫野(7)から車で約5分のどかな里山風景の中に佇む「風のくら」は、明治初期に建てられたという古民家を「ハウスランド社」がリノベーションし、一般に公開している予約制のモデルハウスだ。外から眺めると、和のムード漂う一軒家。しかし扉を開けた瞬間、描いていたイメージはきつと覆されるだろう。まず目の前に飛び込んで来るのは、タイル貼りの土間と、漆喰塗りの壁、天井から下がるモダンな照明、そして奥に



は広々としたキッチンも。そこにあるのはまさに、西洋の家の風景なのだ。

昭和32年に創業した(株)ハウスランド社は、創業当時から主に戸建住宅の設計・施工を手がけてきたが、同時に古民家の再生にも力を入れてきた。古民家には、日本の風土に合った素材や構造を積極的に取り入れながら、職人の技を随所に生かしたものが多く、だがやはり年数を経ることに姿を消しつつある。しかしここに新たなアイデアや現代的な機能を加えてリノベーションすることによって、100年先にも残る住宅として残すことができるのだ。なにより、時間というパイプをまとった独特の雰囲気は、古民家にしか醸し出すことができないものだ。